



No. 17-1
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成22年度第4回

こく えい あすか へい じょう きゅう せき
国 宮 飛 鳥 ・ 平 城 宮 跡
れき し こう えん
歴 史 公 園

【 再 評 価 】

平 成 2 2 年 1 2 月
近 畿 地 方 整 備 局

目次

1. 事業の概要
2. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2) 事業の整備効果
 - 3) 事業の投資効果
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
5. 対応方針(原案)

1. 事業の概要

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園は、我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため、都市公園法第2条第1項第2号口の規定に基づき、閣議決定を経て事業化された国営公園であり、飛鳥区域(奈良県高市郡明日香村)と平城宮跡区域(奈良県奈良市)に大きく分かれる。

○事業の概要

	飛鳥区域	平城宮跡区域
位置	奈良県高市郡明日香村	奈良県奈良市
計画面積	59.7ha	122.0ha
供用面積	46.1ha	未供用
種別	都市公園法第2条第1項第2号口の規定に基づく国営公園	
需要推計人数	約131万(人/年)	約177万(人/年)
全体事業費	1,024億円	
事業化	昭和46年度	平成20年度
都市計画決定	昭和46年 7月(祝戸地区、石舞台地区) 昭和49年 1月(甘檜丘地区) 昭和51年10月(高松塚周辺地区) 平成18年12月(キトラ古墳周辺地区)	平成21年3月
用地着手	昭和46年度	昭和38年度(文化庁取得地)
工事着手	昭和47年度	平成21年度
事業進捗率(事業費)	82%	1%
用地取得率(面積)	99.6%	93.2%(文化庁取得地)



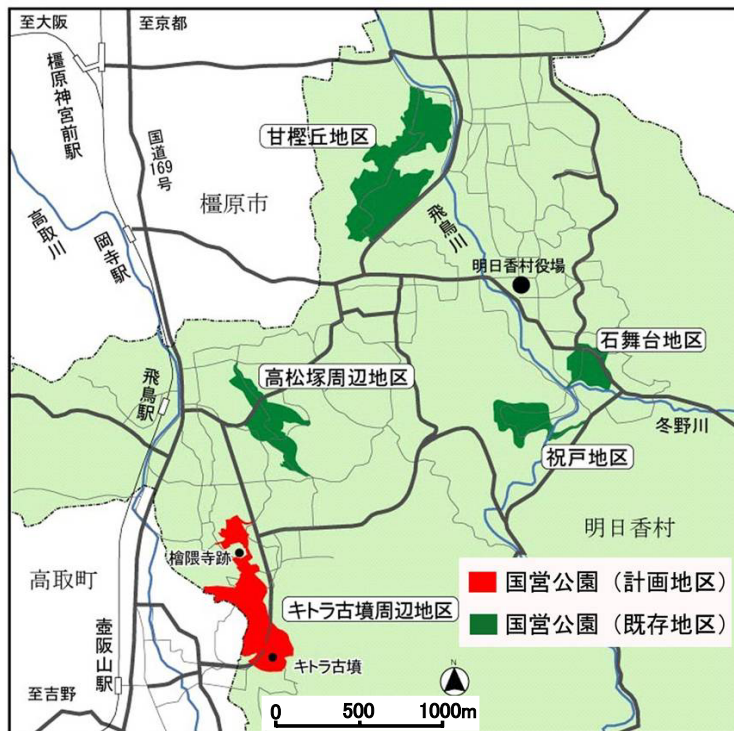
1. 事業の概要

○事業の背景・目的等【飛鳥区域】

我が国の「国家形成の始まりの地」である飛鳥地方において歴史的風土及び文化財の保存及び活用に資する方策の一環として事業化

(* 公園の位置する明日香村は国の特別立法により保存措置が図られている(全村開発規制を実施))

概成開園した4地区(祝戸、石舞台、甘樫丘、高松塚周辺) } に分かれる。
未開園(整備中)の1地区(キトラ古墳周辺)



○概成4地区

祝戸地区 (S49供用・7.4ha)

飛鳥古京をとりまく南側の丘陵地の保全、展望・散策



石舞台地区 (S51供用・4.5ha)

特別史跡石舞台古墳の周辺環境の保全、観賞



石舞台古墳

高松塚周辺地区 (S60供用・9.1ha)

特別史跡高松塚古墳の周辺環境の保全、観賞



高松塚古墳

甘樫丘地区 (S55供用・25.1ha)

飛鳥古京をとりまく西側の丘陵地の保全、展望・散策



1. 事業の概要

○キトラ古墳周辺地区(H13事業化)

・特別史跡キトラ古墳等の周辺環境の保全、観賞
体験的歴史学習の展開

*平成19年度に「景観整備方針」を策定の上で整備中

体験的歴史学習とは

五感を使って楽しみながら飛鳥の歴史(古代～現代)や文化、
 風土について学ぶ普及・啓発活動の総称。

従前の地区にない新たな取組として、地元の活動団体等の参画
 を得つつ、「本物」の魅力を活かした各種プログラムを展開。

「本物のチカラ」と「遊びのココロ」

●本物のチカラ

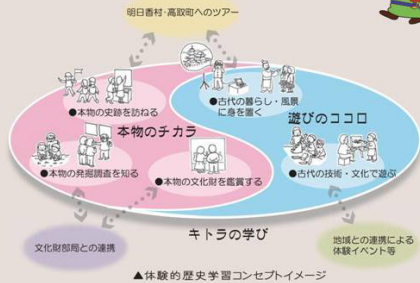
～本物の魅力を満喫する

出土資料の展示や解説、周辺の史跡への
 ガイドツアー等を通じて「本物」に触れ
 る機会を提供します。

●遊びのココロ

～遊びながら古代を体験する

子どもから大人までが楽しむことが出来る
 ように、遊びを通じて学べる展示や体
 験学習を展開し、飛鳥の歴史や文化、風
 土に興味を持つきっかけをつくります。



開園前からの谷園づくり
 として、地域の皆さんと連
 携し、試行イベントを行っ
 ています。
 平成21年は明日香村の
 イベント「明日香まるごと
 体験ウォーク」とあわせて
 実施し、たくさんの方々に
 楽しんでいただきました!



阿部山会場：阿部山地区の皆さんがコスモスを育て、摘み取り体験が行われました。



キトラ古墳
 (覆屋設置前)



史跡指定区域

1. 事業の概要

○事業の背景・目的等【平城宮跡区域】

我が国の律令国家体制の完成をみた奈良時代の都「平城京」の中心であり、現在、特別史跡、かつ、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つとなっている「平城宮跡」の保存・活用を目的として平成20年度に事業化。

（従前から文化庁による保存整備がなされてきたが、より一層の活用を図るため、国営公園事業の手法を導入。特別史跡区域の用地買収は文化庁、今後の施設整備、公園としての管理運営は国土交通省が実施。また、周辺において、奈良県を中心とした地元が、国営公園と連携した整備を実施。）

○平城宮跡の主な保存整備の経緯

幕末	北浦定政が「平城宮大内裏跡坪割之図」などをとりまとめ
明治から大正初期	関野貞が「平城京及び大内裏考」を発表 棚田嘉十郎、溝辺文四郎らが保存会を結成し、土地の買い上げを実施
1922年 (T11年)	史蹟名勝天然紀物保存法に基づく史蹟指定
1952年 (S27年)	文化財保護法に基づく特別史跡指定 ※H21年度末現在 約131ha指定
1959年 (S34年)	奈良国立文化財研究所による継続的な発掘調査の開始 ※H21年度末現在 約33%を発掘
1961年 (S36年)	宮跡内での鉄道検車区建設計画が国民的な保存運動により中止
1963年 (S38年)	国による土地の買い上げ開始 ※H21年度末現在 約83%を取得
1967年 (S42年)	国道24号バイパス改築事業に伴う発掘調査で、東側の張り出しを発見 特別史跡の追加指定とともに、国道路線の計画変更がなされる
1978年 (S53年)	文化庁において「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」策定
1998年 (H10年)	文化庁による朱雀門、東院庭園の復原が完成 ユネスコの世界遺産に登録
2008年 (H20年)	文化庁において「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画」策定 国営公園を事業化、閣議決定の後に公園基本計画を策定・公表
2010年 (H22年)	文化庁による第一次大極殿正殿の復原が完成 平城遷都1300年祭開催

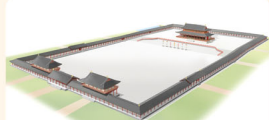


平城宮跡の現在の姿(背景写真は平成22年2月撮影)

1. 事業の概要

『奈良時代を今に感じる空間づくり』を理念に掲げ、国営公園としての利活用性の高さに配慮しつつ、貴重な歴史・文化資産としての適切な保存・活用を通じ、**古代国家の歴史・文化を体感・体験**でき、**古都奈良の歴史・文化を知る拠点**にもなる場所として整備を実施

シンボルゾーン



第一次大極殿の整備イメージ

- 歴史資産の活用を主とする空間として、発掘調査・研究の進んでいる特別史跡区域の中枢部に設定します。
- 第一次大極殿や朱雀門等の復元建物などを中心に、歴史資産を活かした空間づくりを行い、あわせて往時の彷彿とさせるイベントや歴史学習のためのプログラムなどを実施し、往時の平城宮の様子を体感・体験できるようにします。

緑地ゾーン



- 特別史跡区域中央部の両側に位置する未発掘箇所が多い区域に設定します。
- 若草山や生駒山などの眺望を楽しみながら、平城宮跡の広がりや周辺地域との歴史的な関わりを感じられるようにします。
- 散策や草花観賞、自然観察など、草地や湿地等の環境を活かした多様なレクリエーション利用ができるようにします。

* 園内を大きく4つにゾーン分けして、整備を実施



- 特別史跡 平城宮跡
- 史跡 平城京朱雀大路跡
- 都市計画公園区域
- 復元建物等
- 復元建物等以外の建築物 (利用サービス施設等)
- 遺構表示

※現在宮跡内にある道路、鉄道、文化財の調査研究施設等が、条件が整い、全て移転、移設された場合を示します。

外周ゾーン



- 主として特別史跡区域の外周部に設定し、隣接する市街地の遮蔽とあわせて、来園者のサービス機能の充実を図ります。
- 平城宮跡と市街地の間に樹木を植えたり、循環園路や公園の出入り口として必要な施設を設けます。

拠点ゾーン



- 公園全体の利用拠点となる空間として、朱雀門の南側、史跡平城京朱雀大路跡とその東西に設定します。
- 平城宮跡の正面玄関、また、奈良観光の玄関口として、平城宮跡全体のガイダンスや出土品、資料の展示を行う施設、公園の総合的な利用案内サービスの提供や管理運営の拠点となる施設、観光ネットワークの拠点となる施設等を集約的に設けます。
- 朱雀大路から朱雀門にかけて、往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間をつくります。

2. 事業の必要性等に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化【飛鳥区域】

①文化財等の状況

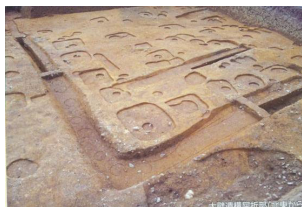
発掘調査の状況

飛鳥地方では、往時の都の姿を明らかにするための発掘調査が継続実施されている。

当公園内でも新たな発見が得られている状況。



甘樫丘東麓遺跡(甘樫丘地区)
蘇我氏邸宅との関連が指摘される建物跡等の発見



檜前遺跡群(キトラ古墳周辺地区)
渡来系氏族の特徴がみられる住居跡の発見

世界遺産登録の動き

発掘調査成果ももとにしながら、世界遺産登録に向けた動きが進行中(「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として暫定リスト入り)。

当公園は、構成資産の一部について、資産そのものや周囲の環境を保全。

(構成資産:石舞台古墳、高松塚古墳、キトラ古墳 等)

古墳壁画の保存管理

高松塚古墳及びキトラ古墳では、国内でそれら古墳でしか見つかっていない極彩色の装飾壁画に関して、カビの発生等による劣化がみられたため、順に石室解体又は漆喰面の取り外しを行い、公園内に文化庁が設けた仮設修理施設において修理中。

さらにキトラ古墳壁画については、一定修理が終わった後、キトラ古墳周辺地区内に新たに設ける施設で保存管理、公開することとして、文化庁と調整中。

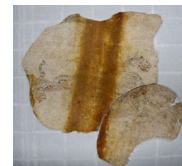


発見当初



平成18年9月

高松塚古墳壁画(飛鳥美人)の劣化状況
※現在は絵の周囲についてクリーニング実施中



キトラ古墳壁画(四神)の取り外し状況

仮設修理施設内における高松塚古墳壁画の保存・修復状況

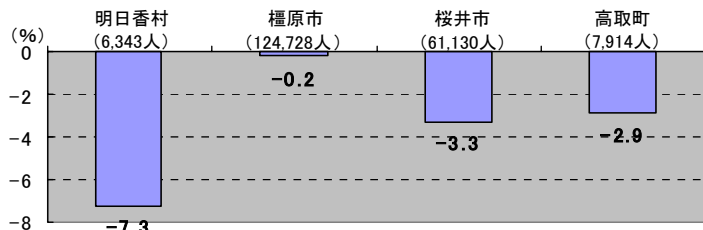
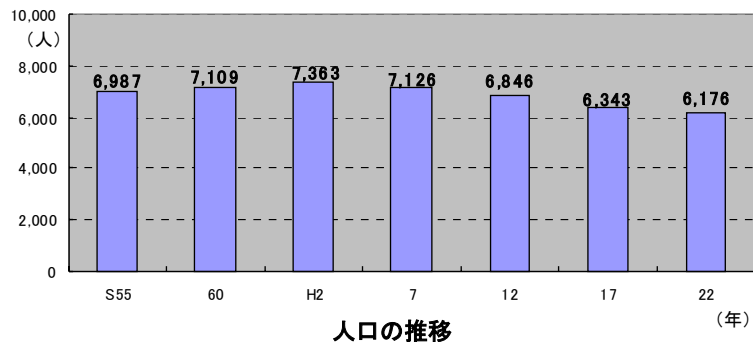
2. 事業の必要性等に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化【飛鳥区域】

② 明日香村の状況

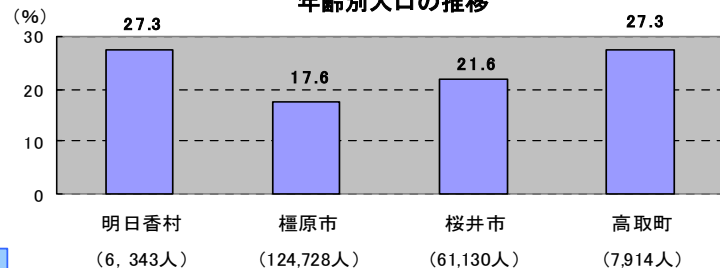
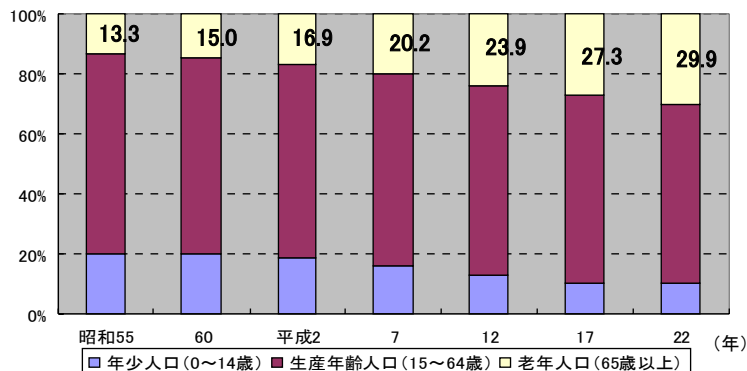
人口減少の状況

人口減少が進み、近年はさらに減少幅が拡大。
近隣自治体と比較しても、顕著な状況。



高齢化の状況

同時に高齢化も進行。
近隣自治体と比較しても、大きな状況。



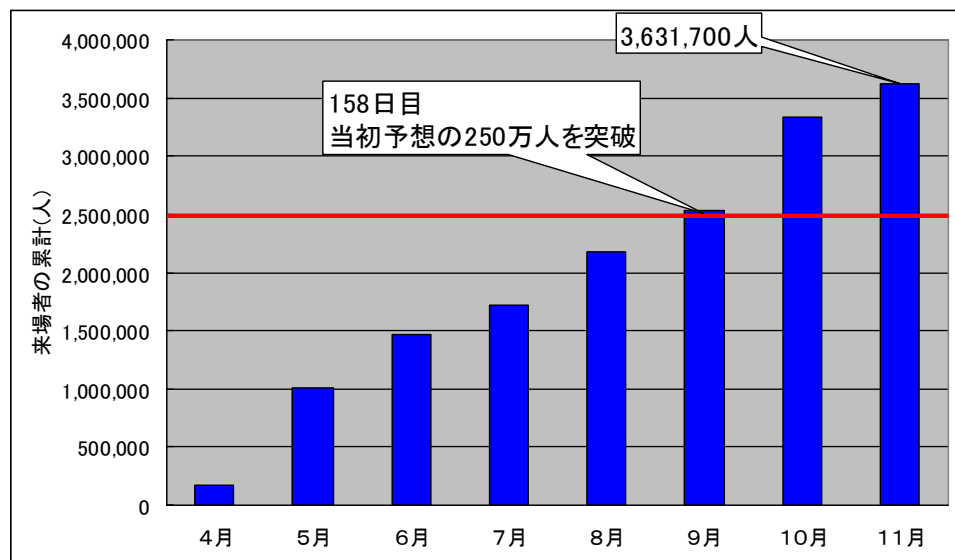
村の魅力アピールし、リピーターを含めた交流人口を増加させ、
村の活力維持に結び付けていくことが重要な課題。

2. 事業の必要性等に関する視点

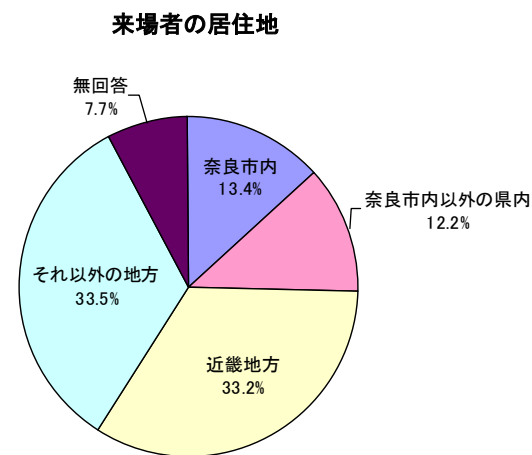
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化【平城宮跡区域】

○平城遷都1300年祭にみられる来訪状況

平城宮跡については、本年、**平城遷都1300年祭の主会場**として活用(4月24日～11月7日、198日間)。
全国から当初予想(250万人)を大幅に上回る人数(約363万人)が来場。



(H22年度 (社)平城遷都1300年記念事業協会調べ)



(H22年度 国営飛鳥歴史公園事務所調べ)

平城宮跡に向けた関心、賑わいを、今後もできるだけ維持し続けることが重要な課題。

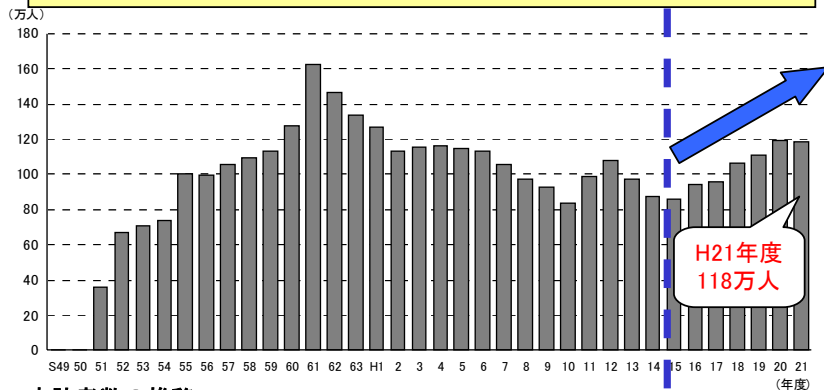
2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果【飛鳥区域】

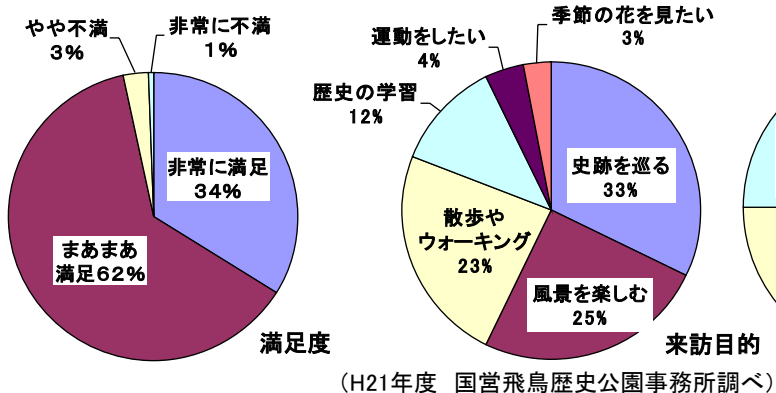
来訪者数は、近年、堅調に伸びており、ここ数年は年間100万人以上を確保。

満足度も概して高い状況。

来訪者は本公園を史跡巡り、風景観賞を目的とした散策・周遊の一環として利用。今後、その役割を維持・強化することでより多くの来訪が期待。



来訪者数の推移 ※石舞台古墳入場者数に利用実態調査に基づく係数を乗じて推定 (年度)



(H21年度 国営飛鳥歴史公園事務所調べ)

さらに、近年の観光にみられる参加体験型の志向に合わせイベントやボランティア活動を積極展開していくことによって一層の観光・交流拠点となることも期待。

参加体験型イベントの継続実施

勾玉づくりやガラス玉づくり、自然観察会など



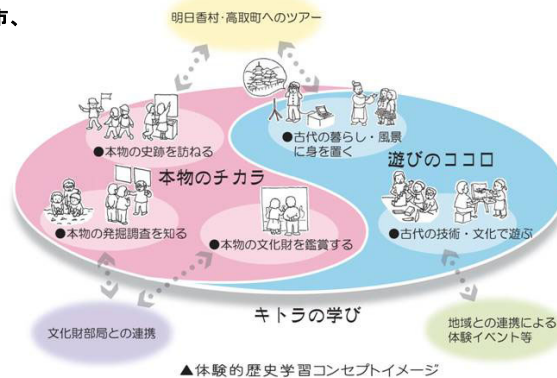
ボランティア活動(飛鳥里山クラブ)の実施

一年間の講座学習を経て登録植物管理やイベントを積極実施

活動人数: 253人 (H21年)
(H7年当初: 49人)
活動回数: 209回 (H21年)
(H7年当初: 35回)



キトラ古墳周辺地区における体験的歴史学習の展開(再掲)

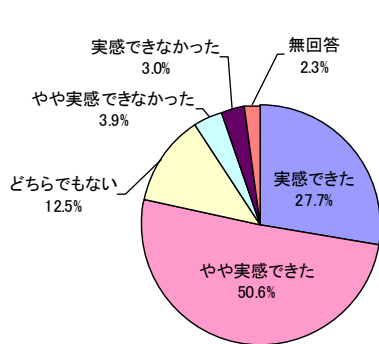


2. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の整備効果【平城宮跡区域】

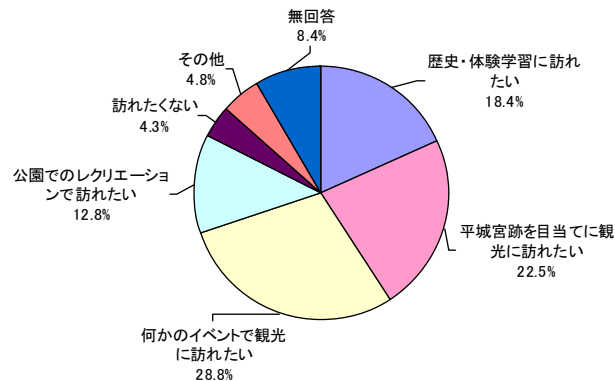
平城遷都1300年祭の来訪者においては、平城宮跡について、**古都奈良の歴史・文化を「実感」「やや実感」できる場所**であったとの感想が多く、**イベント終了後の再訪意向も高い**。

平城宮跡のスケール感、復原された建物の持つ往時のイメージが、以上にある「実感」を与えたとの意見が多く、今後の公園整備において、そのような面を伸ばしていくことで、引き続きの来訪が期待。



古都奈良の実感

古都奈良の歴史・文化、そこでの生活に対する実感について「やや実感」「実感」を合わせて全体の約8割を占める

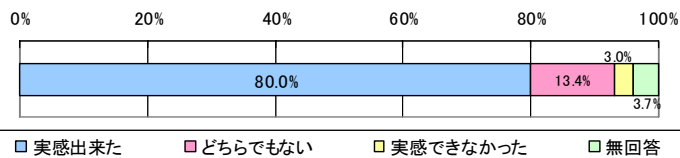


平城宮跡の再訪意向

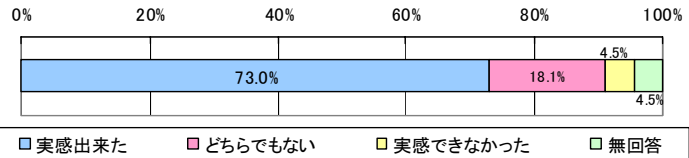
観光目的を中心に再訪意向が約8割を占める

〔古都奈良の実感理由〕

①「平城宮の持っていたスケール感が感じられた」



②「新たに復原した建物により往時のイメージが感じられた(大極殿、朱雀門等)」



2. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果

■ 便益(B)

「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」に基づき、**便益(B)**は、**直接利用価値**と**間接利用価値**から算出。

- ・**直接利用価値**・・・「公園利用者は公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値があると認めている」という前提のもとで、公園までの移動費用(料金、所要時間)を利用して公園整備の価値を貨幣価値で評価する**旅行費用法**。
- ・**間接利用価値**・・・間接的に公園を利用することによって生じる価値。「公園整備を行った場合と行わなかった場合の周辺世帯の持つ望ましさ(効用)の違い」を貨幣価値に換算することで公園整備を評価する**効用関数法**により算定。

■ 費用(C)

公園整備に係る建設費、及び維持管理費で算出。

■ 事業全体

便益(B) (億円)	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益比 (B/C)
		3,884	1,145	5,029
費用(C) (億円)	建設費	維持管理費	総費用	
		2,113	252	2,365

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 便益・費用については、奈良県、文化庁等分を含む。(平城宮跡区域)

※3 便益・費用については整数値としており、合計値は表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある

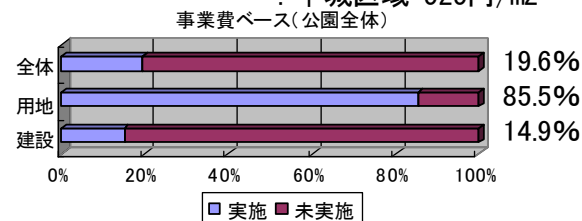
■ 今後の事業費

823億円	うち	用地費	10億円
		建設費	813億円

※ 平成22年4月現在

■ 算出条件等

- ・ 基準年 : 平成22年度
- ・ 検討期間 : 50年間
- ・ 現在価値算出のための社会的割引率 : 4%
- ・ 推計に用いた資料 : 平成17年度 国勢調査
- ・ 適用した費用便益分析マニュアル : 平成19年6月版
- ・ 総建設費 : 1,024億円
- ・ 維持管理費 : 飛鳥区域 473円/m²(~H27)
飛鳥区域 501円/m²(H28~)
平城区域 525円/m²



2. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果(非利用価値を含む場合)

■ 便益(B)

公園の性格を踏まえ、直接利用価値と間接利用価値に加えて、**非利用価値も含めて**便益を求めた場合。

- ・**非利用価値**・・・公園が存在すること自体に喜びを見いだす価値(存在価値)、将来世代に残すことによって生じる価値(遺贈価値)を、仮想的な状況を設定して評価を行う**仮想市場評価法(CVM)**により算定。

【調査概要】

対象: 全国

調査方法: インターネットアンケート調査

調査時期: 飛鳥区域 平成22年8月、平城宮跡区域 平成22年3月

■ 事業全体

便益(B) (億円)	直接利用価値	間接利用価値	非利用価値	総便益	費用便益比 (B/C)
	3,884	1,145	2,051	7,080	3.0
費用(C) (億円)	建設費		維持管理費	総費用	
	2,113		252	2,365	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 便益・費用については、奈良県、文化庁等分を含む。(平城宮跡区域)

※3 便益・費用については整数値としており、合計値は表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある

3. 事業進捗の見込みの視点

【飛鳥区域】

- 昨年度までに、祝戸地区7.4ha、石舞台地区4.5ha、甘櫨丘地区25.1ha、高松塚周辺地区9.1haの**4地区、46.1haを概成開園**。
 - **未開園のキトラ古墳周辺地区13.6ha**については、**用地買収を概ね完了、昨年度から施設整備に着手**。
 - 概成4地区は、里山風景・環境の向上に向けた花修景(林層転換や花木・草花の植え付け等)を実施。
 - **キトラ古墳周辺地区は、平成28年度の全面開園を目指し、計画的に施設整備を推進**。
- (ここ3箇年については、敷地造成や雨水排水施設等の基盤施設、園路広場の整備を中心。)

	既開園区域	キトラ古墳周辺地区
計画面積	46.1ha	13.6ha
用地	全て取得済み(100%)	99.6%取得
工事	46.1ha開園中	未開園



花修景のイメージ



体験学習広場の整備イメージ



3. 事業進捗の見込みの視点

【平城宮跡区域】

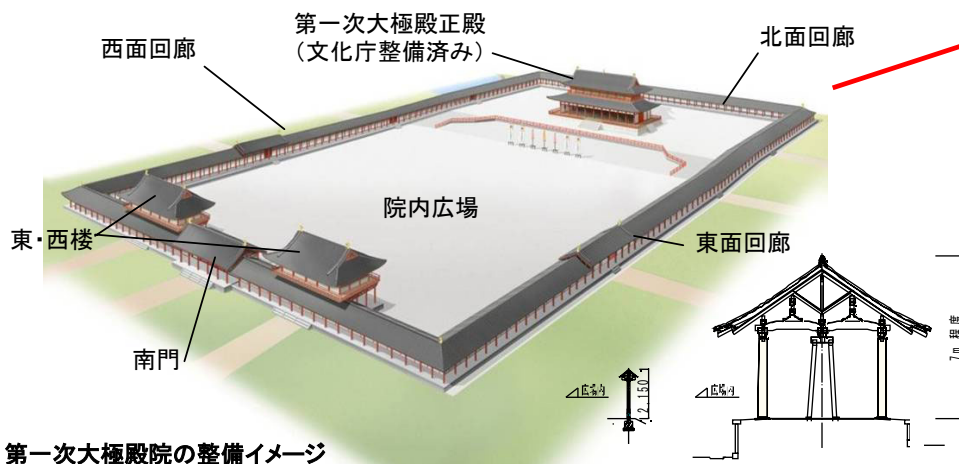
■ 利用サービスの向上を図りつつ、広がりのある空間で往時の宮(都)の歴史・文化をわかりやすく体感・体験できる整備として

・宮の中心を成す第一次大極殿院の建造物復原

(平成22年9月に有識者や関係機関の代表者からなる検討委員会を立ち上げて議論を開始)

・宮跡のガイダンスや公園の利用案内を行う拠点ゾーンの施設整備 を優先実施していく。

計画面積	122.0ha
用地	93.2%(文化庁取得地)
工事	未開園

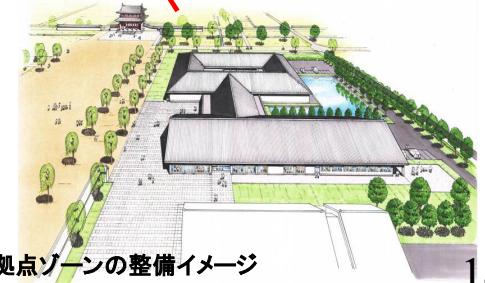


第一次大極殿院の整備イメージ

県道北側部分(北面回廊、東・西面回廊の一部)は
県道移設時期を考慮して整備

現在の修景相

復原予定の築地回廊
※詳細図は別途発行します



拠点ゾーンの整備イメージ

4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

■コスト縮減については、各施設の計画・設計、施工のそれぞれの段階において、材料や工法の見直し等を行い、そのように努めていく。

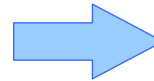
【飛鳥区域】における取組の事例

○調整池の形式変更

広場利用に配慮しつつ
調整池を地下貯留式から
表面貯留式に変更



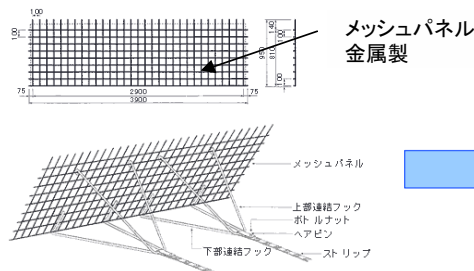
地下貯留式調整池



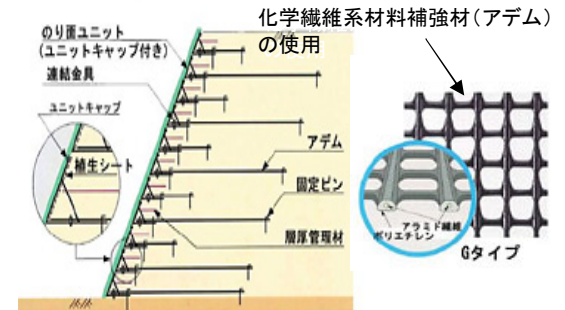
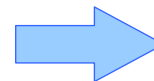
表面貯留式調整池

○擁壁の材料工法の見直し

新技術を活用し、補強材を
金属から耐久性・耐腐食性に
優れる高分子材料に見直し



従来工法(テールアルメ工法)



5. 対応方針(原案)

1. 事業の必要性等に関する視点

- ・ 飛鳥区域について、歴史的風土及び文化財の保存及び活用を図ることを目的とした本事業の必要性は変化していない(むしろ高まっている)。
- ・ 平城宮跡について、平城宮跡の一層の保存・活用を図ることを目的とした本事業の必要性、その効果発揮はこれから期待されるもの。
- ・ 両区域を合わせた費用便益費(B/C)は、2.1(CVMを含めると3.0)。

2. 事業進捗の見込みの視点

- ・ 飛鳥区域は、4地区、41.6haを概成開園済み。残るキトラ古墳周辺地区について、用地買収を概ね完了し、施設整備を計画的に実施中。
- ・ 平城宮跡区域についても同様に、計画的な施設整備を実施予定(なお、用地については、文化庁取得地を主に活用)。

以上、国営飛鳥・平城宮跡歴史公園は、事業の必要性等、事業の進捗の見込みからみて「継続」が妥当と判断できる。

引き続き事業を推進し、早期の開園(効果発揮)を目指すことが適切である。

事業継続



No. 17-2
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成22年度第4回

こく えい あすか へい じょう きゅう せき
国 宮 飛 鳥 ・ 平 城 宮 跡
れき し こう えん
歴 史 公 園

【再評価】

平成22年12月
近畿地方整備局

【 前回評価時との対比表 】

事業名：国営飛鳥・平城宮跡歴史公園

事業化年度：昭和46年度

【 参考資料 】

平成22年度 第4回事業評価監視委員会

	前回評価時 平成18年3月	今回評価 平成22年12月	(主な変更理由)
再評価理由	事業採択後5年間に経過した時点で継続中	再評価実施後3年間に経過	
事業諸元	(全体) 59.7ha	(全体) 181.7ha 【飛鳥区域】 59.7ha 【平城宮跡区域】 122.0ha	・平城宮跡区域について、閣議決定を経た上で、整備に着手した(平成20年度)。
全体事業費	228億円	1,024億円 (飛鳥228億円+平城796億円)	・平城宮跡区域について追加計上した。
進捗率	進捗率(事業費) :62% 用地取得率(面積) :78% 既開園 (飛鳥区域 46.1ha) ※当時は飛鳥区域のみ	進捗率(事業費) : 【飛鳥区域】 82% 【平城宮跡区域】 1% 用地取得率(面積) : 【飛鳥区域】 99.6% 【平城宮跡区域】 93.2%(文化庁取得地) 既開園(飛鳥区域 46.1ha)	・平城宮跡区域について項目追加した。 (用地取得率にある文化庁取得地については無償使用することで合意済み。) ・飛鳥区域について、進捗率(事業費)で20%進捗
費用対効果 B/C (非利用価値 (CVM)を含めた値)	3.5	全体 2.1(3.0) 【飛鳥区域】 3.0(4.2) 【平城宮跡区域】1.8(2.6)	・「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」の改訂(H19. 6)等による変更。 ・間接利用価値の算出について、仮想市場評価法(CVM)から効用関数法に変更した。
備考	<p>○飛鳥区域に関し、未開園のキトラ古墳周辺地区について、用地買収を概ね完了し、施設整備に着手したところであり、平成28年度の全面開園を目指し、敷地造成や雨水排水施設等の基盤施設、園路広場の整備等を計画的に推進する。</p> <p>○平城宮跡区域について、利用サービスの向上を図り、広がりのある空間で往時の宮(都)の歴史・文化をわかりやすく体感・体験できる整備として、第一次大極殿正殿に続く築地回廊等の第一次大極殿院における建造物の復原整備、宮跡のガイダンスや公園の利用案内を行う拠点ゾーンの施設整備を進めていく。</p>		

「共通一様式1」 検討対象公園

都道府市区町村名	奈良県高市郡明日香村
部署名	国土交通省近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所
担当者名	

公園名		国営飛鳥・平城宮跡歴史公園公園			
住所		(飛鳥区域) 奈良県高市郡明日香村大字平田538 (平城宮跡区域) 奈良県奈良市大宮町6-2-19			
種別		国営公園 (口号公園)			
供用(予定)年度	部分供用 (設定)	平成28年度 (飛鳥区域キトラ古墳周辺地区および平城宮跡区域第一次整備供用開始)			
	全体供用 (設定)	平成52年度 (平城宮跡区域第二次整備供用開始)			
分析対象期間		50年間 (平成28年度～平成77年度)			
施設魅力値	区分	部分供用時		全体供用時	
		(飛鳥区域)	(平城宮跡区域)	(飛鳥区域)	(平城宮跡区域)
	自然・空間系	182,375	172,750	182,375	933,263
	施設系	0	0	0	0
	文化活動系	6,024	95,094	6,024	115,093
緑地面積 (ha)		61.5	0.0	61.5	13.7
広場面積 (ha)		5.3	12.9	5.3	70.1
防災拠点機能の有無		1 (有り)	1 (有り)	1 (有り)	1 (有り)
整備費用※	用地費	(飛鳥区域)	59.5 億円		
		(平城宮跡区域)	817.2 億円		
	(合計)	876.7 億円			
施設費	(飛鳥区域)	168.3 億円			
	(平城宮跡区域)	1,185.9 億円			
(合計)	1,354.2 億円				
合計	(飛鳥区域)	227.8 億円			
	(平城宮跡区域)	2,003.1 億円			
(合計)	2,230.9 億円				
維持管理費 (百万円/年) ※		299	340	299	693

※割引前の値を記載

「共通 - 様式6」 便益・費用と費用便益比の計算

便益（飛鳥区域・平城宮跡区域計）

便益 〔百万円〕	現在価格 便益額				割引率	現在価値 便益額				
	利用	環境	防災	合計		利用	環境	防災	合計	
	A	B	C	D		F=A*E	G=B*E	H=C*E	I=D*E	
	合計	1,095,431	105,822	218,944		1,420,197	388,376	36,984	77,564	502,924
～平成21 (2009)										
平成22 2010					1.000					
平成23 2011					0.962					
平成24 2012					0.925					
平成25 2013					0.889					
平成26 2014					0.855					
平成27 2015					0.822					
平成28 2016	22,106	2,067	4,411	28,584	0.790	17,471	1,634	3,486	22,590	
平成29 2017	22,106	2,067	4,411	28,584	0.760	16,799	1,571	3,352	21,721	
平成30 2018	22,106	2,067	4,411	28,584	0.731	16,153	1,510	3,223	20,886	
平成31 2019	22,106	2,067	4,411	28,584	0.703	15,531	1,452	3,099	20,082	
平成32 2020	22,106	2,067	4,411	28,584	0.676	14,934	1,396	2,980	19,310	
平成33 2021	22,106	2,067	4,411	28,584	0.650	14,360	1,343	2,865	18,567	
平成34 2022	22,106	2,067	4,411	28,584	0.625	13,807	1,291	2,755	17,853	
平成35 2023	22,106	2,067	4,411	28,584	0.601	13,276	1,241	2,649	17,167	
平成36 2024	22,106	2,067	4,411	28,584	0.577	12,766	1,194	2,547	16,506	
平成37 2025	22,106	2,067	4,411	28,584	0.555	12,275	1,148	2,449	15,871	
平成38 2026	22,106	2,067	4,411	28,584	0.534	11,803	1,104	2,355	15,261	
平成39 2027	22,106	2,067	4,411	28,584	0.513	11,349	1,061	2,264	14,674	
平成40 2028	22,106	2,067	4,411	28,584	0.494	10,912	1,020	2,177	14,110	
平成41 2029	22,106	2,067	4,411	28,584	0.475	10,492	981	2,093	13,567	
平成42 2030	22,106	2,067	4,411	28,584	0.456	10,089	943	2,013	13,045	
平成43 2031	22,106	2,067	4,411	28,584	0.439	9,701	907	1,935	12,543	
平成44 2032	22,106	2,067	4,411	28,584	0.422	9,328	872	1,861	12,061	
平成45 2033	22,106	2,067	4,411	28,584	0.406	8,969	839	1,789	11,597	
平成46 2034	22,106	2,067	4,411	28,584	0.390	8,624	806	1,721	11,151	
平成47 2035	22,106	2,067	4,411	28,584	0.375	8,292	775	1,654	10,722	
平成48 2036	22,106	2,067	4,411	28,584	0.361	7,973	746	1,591	10,310	
平成49 2037	22,106	2,067	4,411	28,584	0.347	7,667	717	1,530	9,913	
平成50 2038	22,106	2,067	4,411	28,584	0.333	7,372	689	1,471	9,532	
平成51 2039	22,106	2,067	4,411	28,584	0.321	7,088	663	1,414	9,165	
平成52 2040	21,726	2,162	4,350	28,238	0.308	6,699	667	1,341	8,706	
平成53 2041	21,726	2,162	4,350	28,238	0.296	6,441	641	1,290	8,371	
平成54 2042	21,726	2,162	4,350	28,238	0.285	6,193	616	1,240	8,050	
平成55 2043	21,726	2,162	4,350	28,238	0.274	5,955	593	1,192	7,740	
平成56 2044	21,726	2,162	4,350	28,238	0.264	5,726	570	1,146	7,442	
平成57 2045	21,726	2,162	4,350	28,238	0.253	5,506	548	1,102	7,156	
平成58 2046	21,726	2,162	4,350	28,238	0.244	5,294	527	1,060	6,881	
平成59 2047	21,726	2,162	4,350	28,238	0.234	5,090	507	1,019	6,616	
平成60 2048	21,726	2,162	4,350	28,238	0.225	4,895	487	980	6,362	
平成61 2049	21,726	2,162	4,350	28,238	0.217	4,706	468	942	6,117	
平成62 2050	21,726	2,162	4,350	28,238	0.208	4,525	450	906	5,882	
平成63 2051	21,726	2,162	4,350	28,238	0.200	4,351	433	871	5,655	
平成64 2052	21,726	2,162	4,350	28,238	0.193	4,184	416	838	5,438	
平成65 2053	21,726	2,162	4,350	28,238	0.185	4,023	400	805	5,229	
平成66 2054	21,726	2,162	4,350	28,238	0.178	3,868	385	774	5,028	
平成67 2055	21,726	2,162	4,350	28,238	0.171	3,720	370	745	4,834	
平成68 2056	21,726	2,162	4,350	28,238	0.165	3,576	356	716	4,648	
平成69 2057	21,726	2,162	4,350	28,238	0.158	3,439	342	688	4,470	
平成70 2058	21,726	2,162	4,350	28,238	0.152	3,307	329	662	4,298	
平成71 2059	21,726	2,162	4,350	28,238	0.146	3,179	316	637	4,132	
平成72 2060	21,726	2,162	4,350	28,238	0.141	3,057	304	612	3,973	
平成73 2061	21,726	2,162	4,350	28,238	0.135	2,940	293	589	3,821	
平成74 2062	21,726	2,162	4,350	28,238	0.130	2,827	281	566	3,674	
平成75 2063	21,726	2,162	4,350	28,238	0.125	2,718	270	544	3,532	
平成76 2064	21,726	2,162	4,350	28,238	0.120	2,613	260	523	3,397	
平成77 2065	21,726	2,162	4,350	28,238	0.116	2,513	250	503	3,266	
平成78 2066					0.111					

費用便益比

総便益(百万円)	I	502,924
総費用(百万円)	S=P+Q+R	236,543
費用便益比	T=I/S	2.13

費用（飛鳥区域・平城宮跡区域計）

費用 〔百万円〕	現在価格 建設費				割引率	現在価値 建設費			
	用地費	用地費 機費費用	施設費	維持管理費		用地費	用地費 機費費用	施設費	維持管理費
	J	K	L	M		O=J*N	P=K*N	Q=L*N	R=M*N
	合計	87,675	0	135,416		48,452	95,553	85,803	125,520
～平成21 (2009)	5,492	5,492	12,108	5,958		17,073	17,073	23,845	10,884
平成22 2010	68,573	68,573	31,870	218	1.000	68,573	68,573	31,870	218
平成23 2011	6	6	806	231	0.962	6	6	775	222
平成24 2012	1,404	1,404	752	231	0.925	1,298	1,298	695	213
平成25 2013	1,400	1,400	22,417	231	0.889	1,245	1,245	19,929	205
平成26 2014	1,400	1,400	22,381	231	0.855	1,197	1,197	19,132	197
平成27 2015	1,400	1,400	22,501	231	0.822	1,151	1,151	18,494	190
平成28 2016				639	0.790				505
平成29 2017				639	0.760				486
平成30 2018	1,125	1,125		639	0.731	822	822		467
平成31 2019	1,125	1,125		639	0.703	790	790		449
平成32 2020	1,125	1,125	1,129	639	0.676	760	760	763	432
平成33 2021	1,125	1,125	1,129	639	0.650	731	731	733	415
平成34 2022			1,129	639	0.625			705	399
平成35 2023			1,129	639	0.601			678	384
平成36 2024	875	875	1,129	639	0.577	505	505	652	369
平成37 2025	875	875	1,129	639	0.555	486	486	627	355
平成38 2026	875	875	1,129	639	0.534	467	467	603	341
平成39 2027	875	875	1,129	639	0.513	449	449	580	328
平成40 2028			1,129	639	0.494			557	315
平成41 2029			1,129	639	0.475			536	303
平成42 2030			1,129	639	0.456			515	292
平成43 2031			1,129	639	0.439			495	280
平成44 2032			1,129	639	0.422			476	270
平成45 2033			1,129	639	0.406			458	259
平成46 2034			1,129	639	0.390			440	249
平成47 2035			1,129	639	0.375			424	240
平成48 2036			1,129	639	0.361			407	230
平成49 2037			1,129	639	0.347			392	222
平成50 2038			1,129	639	0.333			376	213
平成51 2039			1,129	639	0.321			362	205
平成52 2040				992	0.308				306
平成53 2041				992	0.296				294
平成54 2042				992	0.285				283
平成55 2043				992	0.274				272
平成56 2044				992	0.264				261
平成57 2045				992	0.253				251
平成58 2046				992	0.244				242
平成59 2047				992	0.234				232
平成60 2048				992	0.225				223
平成61 2049				992	0.217				215
平成62 2050				992	0.208				207
平成63 2051				992	0.200				199
平成64 2052				992	0.193				191
平成65 2053				992	0.185				184
平成66 2054				992	0.178				177
平成67 2055				992	0.171				170
平成68 2056				992					